

## 平成30年度 香小研・香中研 研究委託について

### 1 これまでの経緯（平成25年度以降）

県教育委員会が『さぬきの授業 基礎・基本』を発行した平成25年3月以降、本委託事業は、その具現化に向けた取組を重ねてきている。

平成25年度は、『さぬきの授業』の第Ⅰ章の内容について、平成26年度は、その第Ⅱ章部分について、香小研、香中研より事例を募り、それらを「実践事例集（全6冊）」としてまとめた。これにより、『さぬきの授業』に示された全項目における具体的な実践が集まった。

平成27年度及び28年度は、本県の児童生徒の学習意欲面に課題があることを受け、「子どもをその気にさせる教材・教具の工夫」に着眼し、「導入」「展開」「終末」のそれぞれにおける実践を集め、その成果を平成27年度は学習場面ごとの3冊、平成28年度は学校種別の2冊の実践事例集としてまとめた。

平成29年度は、県教委が『さぬきの授業 基礎・基本』を改訂版として刷新したことや、学習指導要領の改訂を受け、本委託事業では、各教科等で子どもに身に付けさせたい力を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて行われた実践研究の事例を集め、主として「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点ごとに整理し、学校種別の2冊の実践事例集としてまとめた。

### 2 本年度の研究委託について

#### （1）委託する部会

- 香小研 国語、書写、社会、算数、理科、生活・総合的な学習、音楽、  
図画工作、家庭、体育、道徳、外国語（H30追加） 計12部会
- 香中研 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語  
計 9部会

#### （2）委ねたい事例数（別紙参照）

#### （3）委託内容

##### ① 研究テーマ

**各教科等で子どもに身に付けさせたい力を踏まえた**

**「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりⅡ**

昨年3月に公示された新学習指導要領の改訂の方向性として、平成28年12月に、中央教育審議会が取りまとめた「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の

学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」において、「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、次の視点に立った授業改善を行うこととされている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
  - ② 子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
  - ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてよく理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。
- （同答申、p. 49-50 より抜粋）

「各教科等で子どもに身に付けさせたい力を踏まえた『主体的・対話的で深い学び』の視点からの授業づくり」とは、その単元等のまとまりの中で子どもたちに身に付けさせたい力を明確にした上で、子どもたちの学びの質に着目して、授業改善の工夫を展開していくことである。

本年度、香小・中研各部会において、各教科等で子どもに身に付けさせたい力を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究を行っていただいた。各教科の実践事例を並べてみると、上記の視点での授業改善を具現化するための方策として、教科を超えて共通するものが見られた。下にその主なものを示す。

○ 主体的な学び

- ・ 児童生徒の意識を重視した学習課題の設定
- ・ 生活との関連や学習したことの活用のある教材の開発
- ・ 自分の成長や良さが感じられる振り返り活動の充実

○ 対話的な学び

- ・ 小集団での学習場面の位置付け
- ・ ICT やミニホワイトボード、思考ツール等による視覚情報化と情報共有
- ・ 対話の必要性をもたせる状況設定の工夫

○ 深い学び

- ・ 各教科での見方・考え方を働かせるよう促す工夫
- ・ 既習の知識と新たに学んだ知識や経験の関連付け
- ・ 他者と考えを比較・交流する場の設定

来年度は、その研究をさらに進め、教科として上記の共通する手立ての中で本年度取り組んでいなかったものに積極的に取り組んでいただきたい。また、本年度とは違う領域や区分、単元での実践研究を行っていただきたい。そうすることにより、本年度の冊子の内容を補完し、2冊併せると充実した実践事例を提供できることとなり、県下の教員のさらなる授業改善・充実につながると考えている。

## ② 取組の視点

昨年度の実践事例は、主として「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の三つの視点ごとに整理し、全事例が教科の枠を超えた参考事例となるようにすべく、各視点に関するQ&Aを見出しとした。本年度は、その「A」にあたる言葉を見出しとして実践事例をまとめるようにし（別紙様式参照）、本年度に引き続き、三つの視点ごとに事例を整理して冊子を作成する。

## ③ 取組のポイント

「主体的な学びにしましょう」「対話的な学びにしましょう」「深い学びにしましょう」という言葉だけでは、どのような支援を行えばよいのかが見えにくい。特に、若い教師は経験が少ないため、どのような授業の工夫・改善が求められているのか想起しづらいと思われる。

そこで、本研究に取り組むに当たっては、目の前の子どもを念頭に置いて、例えば「主体的な学び」を実現している子どもの姿について議論し、その実現に向けて考えられる手立てを、授業場面を通して具体的に示していただきたい。その際、新学習指導要領の全面実施に向けた研究であることから、三つの視点相互の関連を大切にしながらも、特に重点をおいた視点からの授業改善を強調して紹介していただきたい。

そうすることにより、県下の教師がそれぞれの視点を共有することを促進し、また、紹介された事例を起点としてさらなる授業改善につながることも期待できる。

## （４）留意点

- 各視点の工夫には、「教材・教具」「授業展開」「学習集団」「活動」等、多様な工夫が考えられる。どれか一つに焦点化しても良いし、複数を組み合わせても良い。
- 実践は、多大な時間や労力、予算を使ってその時間しか活用できないものではなく、「やってみたい」「できそうだ」という気持ちを喚起するもの、すなわち汎用性が高く、簡便なものが望ましい。
- 各部会で三つの視点にそれぞれ1事例は提出すること。取り組む視点のどれに重点を置くかについては、各部会の判断に任せる。各教科において課題を抱えており、取り組む必要のある視点に重点を置いて実践を募るなど、教科として提案性のある取組を提出する。
- 写真は鮮明なものを使う。子どもが写っている場合は、保護者から画像使用許可済みのものを使用する。
- 支援のよさや、それを生かした成果を中心に述べるようにする。
- 授業前後の子どもの意識を明記し、変容が分かるようにする。具体的な数値で示しても良い。

## （５）実践事例の様式・提出について

### ① 様式

- ・ 字数・行数等は、ひな形の書式に沿い、各事例A 4に1枚でまとめる。

② 締め切りと提出先

- ・締め切りは、平成30年11月22日（木）とする。香小研・香中研それぞれの事務局研究委託担当者あて、教科ごとに1ファイルにまとめた上、電子データで提出する。

（6）提出事例の活用予定について

- 実践事例の中からいくつかを選び、義務教育課で編集した冊子にまとめ、県下の全小中学校に配布する。
- 全ての実践事例を県教育センターHPに掲載する。
- 平成31年度の研修会等で活用する。